

FIRST ISSUE
創刊号

vol.1
September
2025

日本精密測定機器工業会 広報誌

SOKUTEI

The Japan Precision Measuring Instruments Manufacturers Association was established on April 26, 1954, when engineering companies gathered at The Industry Club of Japan to hold the inaugural general assembly. Sixty years have passed since then. Today, the Association is comprised of 31 regular members and 10 associate members, united in their commitment to a wide range of activities. At the time of its establishment, members were centered on gauges such as vernier calipers and dial gauges, with total sales reaching 1.1 billion yen. Since then, over the course of six decades, sales have grown a hundredfold to 110 billion yen. It is a testament to the industrial association to achieve such growth within seven decades. This was made possible thanks to the generous support of government agencies, academic organizations, and other organizations, to whom we express our sincere gratitude. We also pay renewed appreciation to our members, who dedicated themselves to the development of Japan's measuring technology. Building on this foundation, we are committed to achieving even greater progress in the future. In my last anniversary celebration, I also served as the president of the Association, and I will continue to preside over the Association for some time as a part of my duty. It is a privilege and deep honor to be able to contribute to the industry. The future of the industry is a bright one, and we will continue to work together to achieve it.

“はじまり”をカタチに――

創刊号、誕生。

“はじまり”をカタチに——

創刊号、誕生。

機関誌「SOKUTEI」創刊によせて

このたび、日本精密測定機器工業会は、長年の念願でありました機関誌「SOKUTEI」を創刊する運びとなりました。創刊号の発行にあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

当工業会は昨年、創立70周年という記念すべき節目を迎えました。現在、正会員32社、賛助会員15社の皆様が堅固な結束のもと、多岐にわたる事業に邁進しております。この機関誌が、会員間のより一層の連携強化と情報共有の促進に貢献し、ひいては当工業会のさらなる発展を牽引する礎となることを切に願うものでございます。

また、官公庁、教育機関、学術団体、関連諸団体におかれましては、本機関誌を通して、日本精密測定機器工業会の活動と貢献に対するご理解をより一層深めていただければ幸甚に存じます。

機関誌「SOKUTEI」では、業界の動向、最新の技術トレンド、信頼性の高い統計データの開示に加え、理事会および通常総会の報告、新年賀詞交歓会のご案内、会員企業の紹介など、多角的な視点から皆様に有益な情報をお届けする所存でございます。

本機関誌が、多くの皆様に親しまれ、愛される工業会へと成長していくための架け橋となることを確信しております。機関誌の制作におきましては、今後、皆様に取材や原稿執筆のご依頼をさせていただく機会もあろうかと存じますが、その節は何卒ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

私どもは、これからも皆様と共に、当工業会の発展に尽力してまいります所存でございます。機関誌「SOKUTEI」が未永く皆様に愛され、温かく見守っていただけますよう、心よりお願い申し上げます。

日本精密測定機器工業会 会長

吉田 均

SOKUTEIペンギン
メティ



USER'S VOICE

三豊機工株式会社

代表取締役 舟橋 佳孝

設立 1965年6月

所在地 本社 愛知県春日井市東野新町1丁目4番地
工場 鹿児島県南九州市川辺町清水1542-1



が非常に高い為、お客様の声を現場に反映させ易く、製造・営業・お客様が一体となって改善を図る事ができます。これも我々の強みと言えるでしょう。また、オリジナル製品も多々開発しており、特に超硬削型『ダブルヘックス』は圧倒的な優位性を発揮するロングセラー商品であり、世界中のボルト・ナットメーカーから高い信頼を得ており他社にはマネできない製品です。

そうすると人の育成時間の短縮に繋がり、多能工化の促進が図りやすくなります。

御社が一番大切にしていること

当社で一番大切にしていることは、やっぱり他社がやらないこと、やれないことをやることです。こういった考え方で、究極は戦わずして勝つことです。

工業会(精密測定機器)への要望

これは非常に難しいと思うんですけど、測定機器メーカーさんも考えておられると思いますが、個人個人にどうしても測定誤差が出てしまいます。人のクセやスキルによるばらつきを排除できる測定機器を開発していただきたいですね。顕微鏡はのぞいてピントを合わせますが、ピントは個人によって違います。今はオートフォーカスが出てきてすごく良くなりました。マイクロメータはラチェットを使ったりして測りますが、人によって誤差が出てしまいます。人による誤差が排除できる測定機器があると技術者の腕を上げ、製造現場の技術力の向上につながる事になると思います。スマホで三次元測定機を操れるとよいですね！そんな時代が到来する事を期待しております。有り得るかもしれませんよね！

御社の強みを教えて下さい

当社の強みは、冷間圧造工具に関する全てのアイテムを自社で製造出来る点にあります。材料の切断から粗加工、熱処理、旋削・研削加工、仕上げ、コーティングまで、あらゆる圧造工具を100%内製で一貫生産が出来る、業界では類を見ない生産体制を構築しております。毎期、最先端の工作機械や計測機器の設備投資を継続し、技術革新に磨きを掛け、ハイレベルなオーダーにも対応可能な生産体制を整えています。生産形態は一点一様ではありますが、ATC・AWC付き工作機械をはじめ、高効率の生産設備を導入し可能な限り自動化・省人化に取り組んでおります。人のやるべき仕事、人がやらなければならない仕事、機械に任せる仕事を全工程において明確化し、高効率生産の実現に取り組んでおります。約95%と内製率

従業員との関わり

当社は社員の数より機械の方が多いです。当然、社員は機械を複数台使いこなす事になります。社員が使い易いようにメーカーを揃えるのです。例えば平面研削盤はA社、円筒研削盤はB社など、メーカーを揃えています。メーカーを変えてしまうと極端な話、ハンドルが逆回転になることもあります。社員は操作を体で覚えています。同じメーカーの機械を使う事で効率が上がる事は確かであり、不良率も低減出来ます。当社の考え方はプログラミング、加工、計測が出来て一人前です。計測機器を例に挙げると、必要な部署に輪郭形状測定器を設置しておりますが、部署を異動しても設置してある輪郭形状測定機は同じメーカーなので、測定のスキルは既に身に付けており、メインは加工を覚える事になります。

第73回 通常総会（2025年5月14日開催）

会長ご挨拶

本日はご多忙の中、かくも多くの皆様にご臨席賜り、誠にありがとうございます。先ほど13時より別会場にて執り行いました通常総会は、全ての議案を滞りなく終了することができました。これもひとえに会員各位の格別なるご協力の賜物と、深く感謝申し上げます。また、本年度は工業会顕彰6名、従業員表彰15名、合計21名の方々を顕彰いたしました。この顕彰は、当工業会の発展に長年ご尽力された方々、また、会員各社の業績向上に多大なる貢献をされた方々を称えるものでございます。受賞されました皆様に心よりお祝い申し上げます。

業界動向と展望

2025年の販売額予測は、前年比6%増の1,150億円を見込んでおります。これは、当工業会において過去2番目に高い水準

であり、過去最高額に迫る数値でございます。本年3月までは、計画に対し約5%減、前年並みで推移しておりますものの、昨年の販売額も過去5番目の高水準であったことを鑑みますと、全体としては決して芳しくない状況とは捉えておりません。今後の推移を判断する上で重要な指標となる販売額に対する受注額を示すBBレシオは、昨年末から1月にかけてほぼ1に留まる横ばい状態でしたが、2月は0.9、3月は0.8とやや下降傾向を示しております。これは、期末である3月に受注に対する販売が集中する季節的要因によるものであり、例年の範囲内と判断しております。したがって、現時点では横ばいと認識しております。4月以降の巻き返しに期待するところではございますが、トランプ関税の影響には懸念を抱いております。

日本経済とモノづくり

日本経済の原動力は、疑いなくモノづくり産業であり、これこそが我が国の国力であると認識しております。これまで日本のモノづくりは、高精度、高品質、高付加価値を強みとして発展

を遂げてまいりました。しかしながら、近年では中国をはじめとする新興国の追い上げが著しく、国際競争は激しさを増しております。今後も工業国として世界をリードしていくためには、新たなモノづくりへの取り組みが不可欠でございます。例えば、生産効率を飛躍的に向上させるスマートファクトリーの実現や、顧客ニーズに合致した個別最適化モノづくりへの転換が求められております。これらを実現するための研究開発、そしてそれを支える人材育成への取り組みは、極めて重要な課題でございます。特にスマートファクトリーの実現においては、計測技術がその鍵を握ると考えております。つきましては、当工業会としましても、人材の発掘・育成に注力してまいります。具体的には、測定機業界の機関誌発行、各種セミナーや教育活動の実施などを計画しております。本年9月に開催が予定されております測定計測展に合わせ、多角的な活動を展開できるよう、現在、企画・準備を進めているところでございます。今年度も皆様の温かいご支援とご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

第73回 通常総会議事録

議 題

- 第1号議案
2024年度事業報告および決算報告の承認
第2号議案
第55回顕彰者・第67回従業員表彰者の紹介
第3号議案
2025年度事業計画(案)および事業予算(案)のご承認

1. 第1号議案

1-1 事業報告 ①業界の概況説明 ②活動報告(概要)

JIMTOF 2024 会期:2024年11月5日(火)～10日(日)

	出展社数	小間数	総入場者数
2024年	1,262社 (当工業会:26社)	5,619小間 (当工業会:186小間)	129,018人 (海外:10,423人)
2022年	1,087社 (当工業会:29社)	5,743小間 (当工業会:175小間)	114,158人 (海外:4,686人)

今回、工業会で新しい取り組みをおこなった。

共同出展

単独で出展が難しい会員様の為に工業会が小間を借りて出展社をつのり、今回、4社が出展し好評でした。

スタンプラリー

工業会のブースを起点にスタンプラリーをおこない、8社が参加した。

台湾貿易センター会員様に向けた見学ツアー

東4ホールに台湾パビリオンに出展している台湾貿易センターの会員様が当工業会の会員様の小間を見学いただいた。

JIMTOF 2026

会期:2026年10月26日(月)～31日(土)予定

創立70周年記念式典報告

- ・創立70周年記念式典 2024年5月15日開催
 - ・創立70周年記念誌 2025年4月15日発行
- 創立70周年記念式典に伴う費用の支出があった。

1-2 2024年決算報告について

第73回通常総会議案書に基づき、貸借対照表、2024年度損益計算書、収支計算書、資産目録について事務局からの説明があった。この後、監事から会計監査報告がなされた。採決の結果 第1号議案が承認された。

2. 第2号議案

第55回顕彰者・第67回従業員表彰者の紹介

3. 第3号議案

3-1 2025年度事業計画(案)および事業予算(案)のご承認

- 広報活動
 - ▶ 測定計測展 2025
 - ▶ 正会員・賛助会員を増やす施策
 - ▶ 機関紙「SOKUTEI」創刊号の発行
 - ▶ 「SOKUTEIカード」「公式キャラクター:メティ」の訴求
- 教育活動
 - ▶ 東京以外でのセミナー開催
- 標準化活動
 - ▶ JIS規格改正作業・JIS規格5年見直し
 - ▶ JIS B 7524(すきまゲージ)追補改正

3-2 2024年度 予算(案)について

事務局より説明があり、2025年度の事業計画(案)と共に原案通り承認された。



メティの 測定辞典

三次元測定機編



魔法のメジャー!「三次元測定機」ってなあに?

みんなは、学校で使う「ものさし」や「メジャー」を知ってるペン? あれは長さや高さを測る道具だよ。でもでも、世の中にはもっとすごい「ものさし」があるペン! それが、今日メティが紹介する「三次元測定機(さんじげんそくていき)」なんだ!

「三次元」ってどういうこと?

まず、「三次元」っていう言葉だけど、これは「たて」「よこ」「高さ」の3つの方向のことなんだ。
よこ(X): 左右方向の「幅」。
たて(Y): 奥と手前の「奥行」。
高さ(Z): 上下方向の「高さ」。
ぼくたちが住んでいる世界は、この3つの方向でできていて、物も全部この3つの方向の長さを持っているんだ。



どんな時に使うの?

じゃあ、この三次元測定機は、いったいどんな時に使うんだろう? 例えば、おもちゃの工場を想像してみて。新しいおもちゃを作る時、デザイナーさんが「このパーツはぴったり5センチにしたい!」って思うとするよね。でも、実際に作られたパーツが本当に5センチなのか、それとちょっとだけずれているのか、ものさしじゃ測るのが難しい、とっても細かいところまで知りたいんだ。そんな時に、この三次元測定機の番!まるで魔法の指みたいに、機械の先っぽが測りたいものの色々な場所にそっと触れるんだ。すると、その触った場所が「たて、よこ、高さ」のどの位置にあるのかを、コンピューターがすごい速さで正確に教えてくれるんだよ。最近では、小さかったり、狭かったり魔法の指が触れないような場所でも、触らなくても測定できるセンサもあるんだよ。

どうして「魔法のメジャー」なの?

この三次元測定機が「魔法のメジャー」って言われるのには、いくつかの理由があるんだ。
とっても正確!ものさしじゃ測れない、髪の毛よりも細い0.001ミリ単位のずれまで見つけれられるんだ。
いろんな形が測れる!まっすぐなものだけじゃなくて、丸いもの、曲がっているもの、複雑な形のものも、どこでも測れるんだ。
間違えにくい!人が手で測ると、どうしても少しのズレが出てしまうことがあるけど、機械が測るから間違いが少ないんだよ。

どんなところで活躍しているの?

この三次元測定機は、みんなの身の周りにある色々なところで活躍しているんだ。

自動車工場
車の部品がぴったり合うか、間違いがないかチェックする。

航空・宇宙
飛行機は少しのズレも許されないから、これで厳しくチェックするんだ。

スマートフォンやパソコンの工場
小さな部品が正確に作られているかを確認するよ。

医療の世界
例えば、義手や義足を作る時にも、正確な形を測るのに使われたりするんだ。

まとめ

三次元測定機は、まるで目に見えない「魔法の指」で物の形や大きさをピタリと測る、すごい機械なんだ。これがあるおかげで、みんなが毎日使う車やスマートフォン、おもちゃなどが、正確に、そして安全に作られているんだね。もし、工場見学に行く機会があったら、この「魔法のメジャー」を探してみてペン!

サステナビリティ宣言

メティと考える「地球のためにできること」

みなさん、こんにちは!今日は「サステナビリティ」について「メティ」がお話するペンよ。
これは、みんなの地球を大切にするためのとても大事な話しなんだペン。

サステナビリティっていうのは、簡単に言うと「地球にやさしくすること」ペン。
みんなが今使うものや資源を大切に、未来の子どもたちも同じように楽しめるようにすることペンよ。

「地球を守るために、ゴミを減らそう!エネルギーを大切に使う!」
こういった取り組みが地球を大切にしていけるペンよ!



一人ではできないけれど、工業会の会員
みんなで協力すれば大きな力になるペンね。
友達や家族と一緒に地球を守ることを考えてみるペン!
ゴミ拾いイベントに参加したり、自分たちで植えた植物を大切に育てたりすることも一人一人ができることペンよ。

地球はみんなの家だから、サステナビリティを意識することで、もっと素敵な場所にしていけるペン! 小さなことから始めてみるペンね。
一緒に地球を守るヒーローになるっぺ!
メティの仲間はサステナビリティに取り組んでいるペン。
これから「メティ」が機関誌「SOKUTEI」で紹介していくペンよ!
地球はあなたに、あなたは地球に、やさしくするペン!

